

令和 8 年度 第 1 回長野県長野高等学校学校評議員懇談会 記録

1. 日 時 令和 8 年 7 月 9 日 (木) 15:00～16:30

2. 会 場 長野県長野高等学校 大会議室

3. 出席者

学校評議員 5 名 (五十音順)

佐野 忠文 氏 (上松区 区長)

竜野 泰一 氏 (株式会社エーシーエ設計 代表取締役)

中村 正行 氏 (信州大学教育・学生支援機構 特任教授)

山下 美由紀 氏 (長野市 PTA 連合会副会長)

吉江 志濃 氏 (臨床心理士・スクールカウンセラー)

学校職員 10 名

4. 学校評議員懇談会

(1) 開会 (15:00～)

(2) 学校長挨拶・委嘱 (15:00～)

(3) 自己紹介 (高校職員のみ)

(4) 全日制の状況について (15:10～)

① 全日制の概況 (全日制教頭)

- ・本年度の入学生は 281 名であった。生徒は、様々な活動に主体的に取り組んでいる。
- ・例年実施している駅伝大会は、施設の改修工事のため中止となり、代わって生徒が主体となって企画した“長高スポーツフェスタ”を行った。バラエティーに富んだ種目をはじめ最近のビデオ判定を導入するなど工夫を凝らし、とても盛り上がった。
- ・1 学年は、基本的生活習慣と自立的な学習サイクルの確立を目指している。
- ・2 学年は、日々の学習活動を通して主体的に学ぶ姿勢を醸成することを目指している。“英語キャリアプロジェクト”では、台湾研修で共に活動するグループ、リーダーが決まり、本格的な準備が始まった。夏休みには、1 人 1 校のオープンキャンパスに参加し、その報告会も企画している。
- ・3 学年は、学習を中心とした自主・自立した学校生活を目指している。例年に比べて、学習時間の不足が指摘されており、“朝勉”を推奨している。
- ・3 年後、創立 130 周年を迎えるにあたり、さらに魅力的な高校になるよう生徒、教職

員ともに励んでいる。

② 進路学習支援係より（進路学習支援係）

- ・生徒たちが社会とどう関わり、どう生きていくかを考える土台を作ることを進路指導の主眼とし、また同時に学ぶ楽しさも感じてほしい。通常の学習活動のみならず自ら課題を見つけ、その解決に向けて協同的に取り組む探究活動や班活動、生徒会活動を含めて生徒の人間力を向上させる取り組みを進路指導と考えている。
- ・昨年度の卒業生の進路に関する特徴は、国公立大学の合格者数においては減少したが、東大をはじめとする難関 10 大学、医学科への合格者数は増加した。共通テストの結果に関わらず弱気の出願傾向が見られる全国の様子に対して、本校の生徒は強気で、第一志望の大学を最後まで目指してよく頑張ったと言える。
- ・義務教育段階において家庭での学習習慣が身につけていない生徒が増えており、それが高校生になっても家庭学習時間が増えていかない一つの要因と思われる。

③ 生徒指導係より（生徒指導係）

- ・昨年度は、自転車による交通事故が 33 件と多かった。その約 80%は自動車との接触事故である。本年度は現在までのところ減少傾向で、安堵している。今後も保護者と連携しながら注意喚起を継続したい。
- ・保健室の利用状況は、昨年度に比べ内科的件数が増加しているが、保健室利用記録票に生徒自ら記入するシステムとなっており、検温にきた生徒の数等も含まれている。

④ 生徒会係より（生徒会係）

- ・生徒たちは勉強、課題研究、班活と、とても忙しい中、昨年度よりもさらに良い活動にしようと頑張っている。
- ・例年行われている駅伝大会は、施設改修工事のため本年度は中止となった。生徒たちは、その代わりに“長高スポーツフェスタ”を企画し、2月頃より種目の検討等の議論を行っていた。生徒全員が参加できるよう“全校〇×クイズ”等、斬新な種目を採用した。
- ・現在、定期考査中であるが、会長選挙の公示がされており、複数の立候補者の申し出が見込まれている。

⑤ N G P 係より（N G P 係）

- ・N G P (ナガノ・グローバル・プロジェクト)は、文部科学省指定の S G H 事業終了後、基本的な事業（課題研究と国際交流）を継続して行う探究活動である。毎週月曜日の 6 時限目に設定し、全職員が担当して 1 ～ 3 学年の学校全体で実施している。1 年生はテーマご

とにグループ単位で、2年生は個人で探究活動に取り組み、夏休みを利用してフィールドワークを実施する計画である。3年生は選択となっており、探究をさらに深めたいと考える生徒が熱心に取り組んでいる。

- ・本校のコンソーシアムの体制は信州大学をはじめ9団体におよぶ。
- ・国際交流は、米国研修、シンガポール研修、イギリス研修が設置され、選択の幅が広がった。昨年度、米国研修参加生徒数は36名で、ハーバード大学、国連等を見学した。シンガポール研修は大学との連携、イギリス研修は語学研修がメインである。

(5) 定時制の状況について（定時制教頭）

- ・義務教育段階で不登校を経験している生徒が多いため、まずは登校できることを基本とし、職員間で生徒情報の共有に努め、SCやSSWや外部機関との連携を活用しながら、全職員で個々の生徒の指導に生かしている。現在、いじめ等のトラブルもなく、ほとんどの生徒が登校できており、学校を楽しんでいる生徒も見られる。
- ・本年度の金鵒祭では、全定合同企画としてモニュメント制作があり、放課後、全日の生徒との有意義な交流が見られた。普段の学校生活の中では、全日の生徒との関わりは全く無いので、本当に良い取り組みであったと感じる。
- ・昨年度の卒業生は、4卒生4名、3卒生5名の計9名であった。共通テストは3名が受験しており、現在、四年制大学への進学を目指して浪人中である。

(6) 学校評価について（全日制教頭）、（定時制教頭）

- ・全日制、定時制について中間および年度末最終評価をお願いしたい。（各議員に依頼）

(7) 意見交換

○評議員 ・現在の小学校高学年では、“自学”と称して、特に宿題と言えるものがなく、子供の自主的な学習に任せています。中学校でも同じような状況があり、そのまま高校へ上がっても、なかなか家庭学習に取り組めないのではないかと。

(学校長) ⇒ ・義務教育において、そのような状況があることは承知している。ある中学校の生徒の多くは塾へ行って学習しているようである。自学自習と宿題等の管理のさじ加減が難しい現状である。英語教育についても、学習指導要領ではコミュニケーション力の強化を重視し、文法力の必要性が軽視されている傾向があり、現場の英語教師も困っている。

(進路学習) ⇒ ・本校の進路指導では、生徒の学習状況を踏まえて1年生では教師主導で課題を与え、2年生では自学の要素も取り入れ、3年生で受験に向けての自学自習に向かえるように各教科で工夫している。

○評議員・小学校、中学校、高校と学習に取り組む状況に大きな格差があり、子供たちが大変だと感じた。

○評議員・理系女子枠について、現状、女子の理系の割合は増えているのか。

(進路学習) ⇒ ・女子生徒には、受験情報として伝えてあるが、積極的に利用せよという言い方はしていない。正確なデータはないが、理系女子の割合は、若干増加傾向である。本校でもチャレンジする女子生徒もいるが、極めて狭き門である。

○評議員・教職員のストレスケアのための研修や取り組みはあるのか。

(学校長) ⇒ ・メンタルヘルスチェックを年2回実施している。その状況をみながら、学校衛生委員会等で対応策を検討している。それでも班活動を指導している教員の勤務状況は厳しく、100時間を超える職員もいる。改善に向けて取り組みたい。

○評議員・SGH や NGP の取り組みから、本校の生徒は自ら探究する力が十分に育成できていると思う。その先を考える時期に来ていると思うが、何か計画はあるのか。

(NGP) ⇒ ・生徒の興味関心は多岐にわたっているので、個別最適化を目指して粛々と進めていく。例えば、情報系を目指す生徒は、金鵒祭において混雑状況をスマホで確認できるシステムを開発するなど活躍している。

○評議員・DX から AX へなど社会システムも変化している現在、分離融合的な学びが重要と思う。今後も中学生が魅力を感じる高校となるよう頑張ってもらいたい。

(学校長) ⇒ ・本校で実施している様々な探究活動は、やらされている探究活動ではない。1年時はグループで、2年時は個人で、3年時はさらに探究を深めたいと考える生徒のためにと様々な形態のまさに生徒主体の探究活動である。

・また、現在、130周年を迎えるにあたり、持続可能な130年以後の長野高校の環境を生徒と共に考えたい。

○評議員・毎年、運動会等で長野高校には大変お世話になっている。今年も上松地区のお祭りの花火の打ち上げでグラウンドをお借りするが、よろしくお願いしたい。

・地元住民も地域見守り隊を結成し、子供たちの安全に注意を払っている。

特に、自転車による交通事故には十分に気をつけてほしい。

・冬期には長野高校周辺の雪かきを生徒たちが行ってくれ、高齢の住民はとても感謝している。

○評議員・信州大学の工学部では、県外出身で教員を目指す学生が自分の出身校ですら教育実習ができない実態がある。長野高校で受け入れてもらえるか。

(教務係) ⇒ ・ 各教科の受け入れ限度内の人数であれば、受け入れ可能である。

(8) 校長より御礼の言葉

(9) 閉会 (16:30)